昭和34年の台風７号

8月14日早朝、駿河湾から富士川沿いに北上した台風7号は、甲府盆地西側を通過。直撃された山梨県は全県に大きな被害を受けた。

台風通過コースの東側にあたった甲府市は、秒速40㍍を超える強い風に襲われ、樹木がなぎ倒され、住宅の屋根が飛ばされた。被害は、甲府市内だけで、死者5人、家屋の全・半壊2,111件、床上・床下浸水1,715件に達した。

台風7号は、従来の雨台風と異なり、強烈な暴風を伴った風台風で、朝の甲府盆地を荒れ狂った。すさまじい風の音は、今も市民の脳裏に焼き付いている。郊外の里垣、甲運地区などでは、ブドウの棚がすべてなぎ倒され、市内の中学、高校生までが棚おこしの復旧作業に動員された。

強風で壊れた甲府銀座のアーケード

吹き飛ばされた舞鶴城公園東側の民家の様子

屋根を吹き飛ばされた家（甲府市・昭和34年）　山梨大学前の惨状。屋根は吹き飛ばされ、壁は打ち破られており、暴風雨の猛烈さが伝わってくる。台風のスピードが速すぎて防災対策が間に合わなかったこともあり、未曾有の大災害となった。

なぎ倒された大木（甲府市・昭和34年）　国母小学校では、校庭の大木が強風で根こそぎ倒された。校庭に横たわる大木が風の強さを物語っている。屋根の瓦も吹き飛ばされている。

倒れた電柱（甲府市・昭和34年）　死者66人、行方不明24人、家屋全壊1659戸、半壊4574戸と大きな被害を残した台風7号。猛烈な暴風雨をともなった台風は富士川に沿って北上し、甲府盆地西部を非常に速い速度で通過していった。倒れた電柱の下を男性がバイクを押し、かいくぐるよおうに通っている。市内のいたるところで、こうした光景が見られた。

崩壊した家（甲府市・昭和34年）
この家も台風によって屋根や壁を吹き飛ばされた。台風が去ったあと、家の人はただ呆然と立ち尽くすしかなかった。

水びたしの街（甲府市・昭和34年）
7号台風一過の下一条町のようす。河川の氾濫であふれ出た水で道路は水浸しとなった。長靴を履いた男性の横を車が通っていく。

アメのように折り曲って崩壊した銀座アーケード

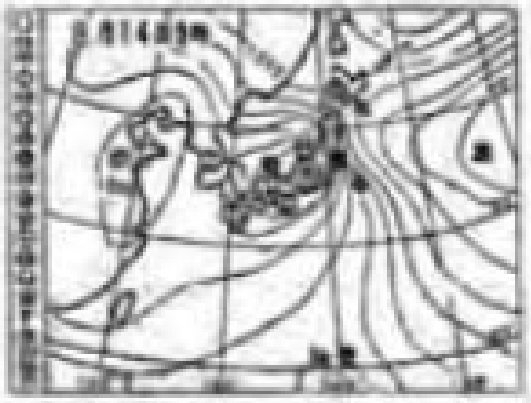
倒壊はまぬがれたものの立っているのが精一ぱいの善光寺

県内はもちろん日本でも有数の大建築である善光寺の本堂は、昭和34年8月の7号台風によって大きな痛手をこうむった。幸い修理工事中のことであり、足場などが組み立てられていたためか倒壊はまぬがれたが、山門はみるかげもなく壊れ落ちた。

国の重要文化財・善光寺本堂と山門は、その後修復され、いま、緑の風の中でその偉容を誇っている。

昭和34年8月の7号台風、続いて同年9月の伊勢湾台風（15号）により市民がしばらく忘れかけていた災害の恐ろしさをまざまざと教えられた。本市だけでも死者5人、家屋の全・半壊2,111件、床上・床下浸水1,715件を数える7号台風の被害に加え伊勢湾台風も猛威をふるい、両台風あわせて県下の被害は死傷者1,004人、400億円に達した。

七号台風のつめ跡、相川地内の農家



七号台風のときの天気図

浸水の被害に遭った下一条町（現・城東三丁目）一帯

相生小学校に避難した付近の住民

電柱などが道路をふさぎ、通行不能になった甲府一静岡線

避難先の相生小学校で自炊する市民

無料健康診断
甲府市保険課
無料

倒壊した「ボロ電」の車庫（甲府市・昭和34年）　車庫の屋根がぺしゃんこになっている。手前の建物も壁が残った程度。左端に男性がひとり立っているが、この光景に呆然としているようすだ。

倒れかかった「ボロ電」（甲府市・昭和34年）　屋根や壁が崩れ落ち、「ボロ電」がその下敷きになり、車体も大きく傾いている。これら台風7号の復旧に取りかかっている最中、さらに台風15号による被害を受けた。再開に向けた復旧経費は膨大で、「ボロ電」の経営を圧迫していった。

米アイオワ州から災害見舞い団（甲府市・昭和35年）　昭和34年は山梨県にとって未曾有の災害年だった。8月に台風7号、9月に台風15号（伊勢湾台風）が立て続けに襲来し、人的・物的に大きな被害を受けた。アメリカの姉妹州アイオワ州からも支援があり、同35年にはアイオワ豚35頭、飼料用トウモロコシなどが贈られてきた。
写真は見舞い団が県庁に到着した際に県庁玄関口で撮影されたセレモニーのひとコマ。